

照明市場に関する調査結果 2010

—LED照明への注目の高まり、省エネ推進を追い風に、市場は回復傾向に—

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内照明市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2010年7月～11月
2. 調査対象：照明市場参入企業、電設資材卸事業者、関連業界団体等
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

<照明市場とは>

本調査における照明市場とは、照明器具、電球類、LED照明（LED照明器具、LEDランプ）で、建築物に付随する照明や道路照明など一般照明用途に使われているものを対象とする。自動車用途や産業用途、機械器具類等の照明は除く。

【調査結果サマリー】

◆ 2010年の一般照明用途の照明総市場規模は、2009年比102.7%の7,420億円の見込み

2009年の一般照明用途の照明総市場規模は、2008年比94.6%の7,227億円と推計する。2008年秋以降の景気悪化の影響により、建築物の新設着工件数が大きく落ち込み、これに大きく依存している照明市場の規模は大きく減少した。2010年については、省エネ法の改正や、景気対策としての公共事業の増加によって、LED照明をはじめとする高効率照明への切り替えが進み、市場規模は2009年比102.7%の7,420億円とプラスに転じるものと見込む。

◆ 2010年のLED照明の市場規模は、2009年比195.2%の730億円の見込み

LED照明は、2009年に照明メーカーおよび新規参入事業者各社から電球形LEDランプが次々と発売され、その注目度が一気に高まった。省エネ法の改正等により、省エネ推進が社会的な潮流となるなか、高い省エネ性能や長寿命を有するLED照明の普及は飛躍的に進み、その市場規模（一般照明用途）は2009年において2008年比249.8%の374億円と推計し、2010年においては2009年比195.2%の730億円になると見込む。

◆ メーカー各社は、事業の軸足を既存光源からLEDにシフト

LED照明が急速なペースで普及しつつあるなか、照明メーカー各社は、その事業の軸足をLEDにシフトしつつある。その傾向は、中堅規模の照明専門メーカーに強く見られ、将来的に国内需要の縮小が見込まれるなか、LED照明への注力および海外市場での展開、需要先用途の拡大によって事業規模の維持が図られている。一方、大手電機系メーカーにおいては、最終製品としてのLED照明のみならず、デバイス事業の展開による事業拡大が目指されつつある。

◆ 資料体裁

資料名：「2010年版 照明市場の展望と事業戦略」
 発刊日：2010年11月30日
 体裁：A4判 549頁
 定価：126,000円（本体価格120,000円 消費税等6,000円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝
 設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況

2009年の照明総市場の市場規模は、2008年比94.6%の7,227億円と推計する。2008年秋以降の景気悪化の影響により、建築物の新設着工動向が大きく落ち込み、これに大きく依存している既存光源の照明器具の市場規模は大きく減少した。省エネ性能の向上、長寿命化での単価の上昇による電球類の市場規模の増加、大きな注目を集めたLED電球に牽引されてのLED照明の市場規模の増加も、これを補うには至らず、照明総市場の市場規模は3年ぶりに減少に転じることとなった。

2010年については、既存光源の照明器具市場が依然として低迷している一方、電球類やLED照明は、省エネ法の改正に伴うオフィス・工場、商業施設における高効率照明への切り替え、景気対策としての道路照明等の高効率照明への切り替え推進によって、順調に推移しており、照明総市場の市場規模は2009年比102.7%の7,420億円と見込む。

2. 注目すべき動向

昨今の照明市場においては、LED照明を中心に市場が動いていると言っても差し支えないほど、LED照明が大きな注目を集めている。照明メーカーおよび新規参入事業者各社から電球形LEDランプが次々と発売され、その注目度が一気に高まった2009年は、「LED元年」と称されることも少なくない。その話題性の高さに加え、省エネ法の改正、景気対策としての公共事業による道路照明等の高効率化等、省エネ推進の社会的な潮流も追い風となり、市場規模は2009年には2008年比249.8%の374億円と飛躍的に拡大、2010年も2009年比195.2%の730億円と予測する。

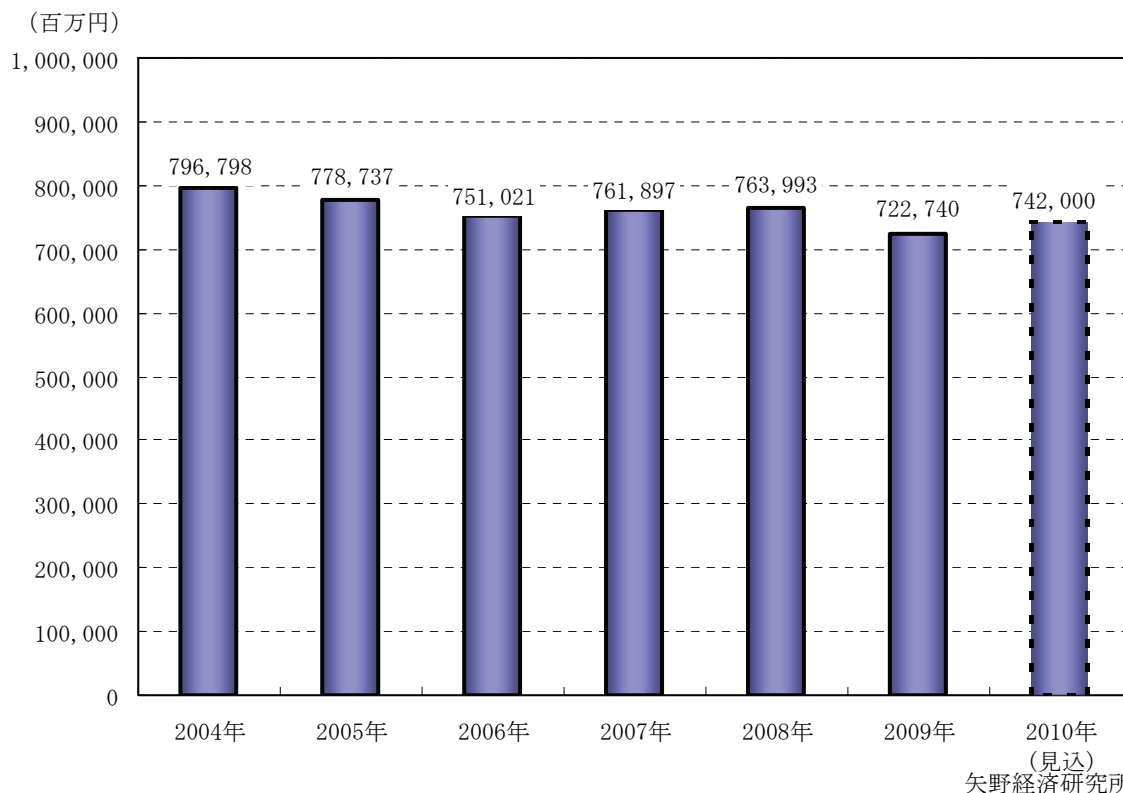
これまでのLED照明は、電球形LEDランプをはじめ、ダウンライトやスポットライト照明器具など、従来の白熱電球照明を代替するものが中心であった。しかし2010年に入り、蛍光ランプ照明を代替するようなベースライト照明器具が次々と上市されるようになった。さらにこれまで、海外メーカー、ベンチャー企業など一部でしか展開されてこなかった直管形のLEDランプについても、日本電球工業会で規格が策定されたことに伴い、大手メーカーが参入を発表している。わが国の照明市場においては、光源の約7割を蛍光ランプが占めており、蛍光ランプを代替できるLED照明の普及が始まれば、LED照明全体の市場規模はさらに大きく拡大すると推測する。

3. 参入事業者の動向

LED照明が当初の予測を上回るペースで普及しつつあるなか、照明メーカー各社は、その事業の軸足をLEDにシフトしつつある。

わが国の照明需要は、長期的には人口減少に伴って縮小していく見込みが強い。それを懸念するメーカー各社では、海外での事業展開、需要先用途の拡大、素子・モジュール等のデバイス事業など川上への事業領域の拡大等に活路を見出そうとしている。各社がそのきっかけとして捉えているのが、既存光源からLED照明への切り替えであり、現在、LED照明事業の強化を図るべく、照明事業の軸足を徐々にLEDにシフトさせつつある。特に中堅規模の照明専門メーカーにおいて、その傾向は強く見られ、LED照明を中心とした商品ラインナップの拡充とともに、海外での事業展開、需要先用途の拡大に向けた動きが着実に進んでいる。

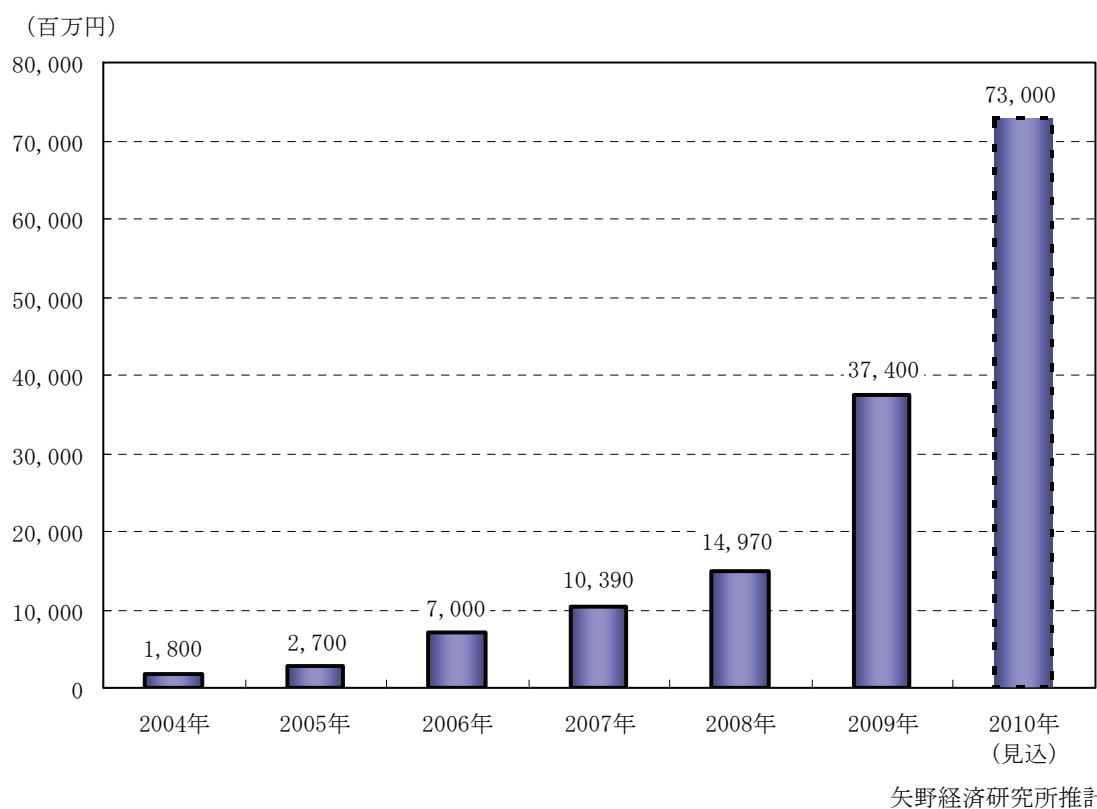
一方、大手電機系メーカーにおいても、既存光源からLEDへの本格的なシフトに備え、海外での事業展開はもとより、最終製品としてのLED照明のみならず、デバイス事業といった川上分野の事業も展開することによって、事業拡大を目指そうとしている。

図1.照明総市場（一般照明用途）規模推移と予測


注1: メーカー出荷金額ベース

注2: (見込)は見込値

注3: 照明総市場とは一般照明用途に使われている照明器具、電球類、LED照明を対象とする

図2. LED照明（一般照明用途）市場規模推移と予測


注4: メーカー出荷金額ベース

注5: (見込)は見込値

注6: LED照明市場とは一般照明用途に使われているLED照明器具とLEDランプを対象とする